



2026年4月27日

報道関係者各位

慶應義塾大学

## ディープテックの社会的インパクトを実践的に学ぶ 選抜型研修「慶應義塾イノベラボ」第1期生、募集開始 ～投資家・事業会社など資金の担い手から伴走者を育成～

慶應義塾大学（所在地：東京都港区、塾長：伊藤公平）は、ディープテックの社会的インパクトを体系的・実践的に学ぶ少人数制の選抜型研修プログラム「慶應義塾イノベラボ」の第1期受講生募集を開始しました。本プログラムは、ディープテックの事業性と社会課題の解決という長期的視点を同時に見据え、投資・事業を設計できるリーダーの輩出を目指すものです。

大学発ディープテック・スタートアップの最前線と、機関投資家・事業会社など「資金の担い手」が大学という開かれた場で交わることで、研究成果を社会実装へつなぎ、社会的インパクトと事業性の双方を追求する人材を育成します。これにより、ディープテックを、社会を変革する産業へと発展させるキープレイヤーを輩出し、日本のイノベーション・エコシステムの高度化に貢献することを目指します。

ディープテックは、バイオ、宇宙、量子技術など社会構造を変えうるポテンシャルを持つ一方で、事業化までの時間軸が長く、その支援にも高度な専門性が求められます。その結果、研究のみならず、市場実装に必要な資本や人材、パートナーシップが十分に整わず、「死の谷」と呼ばれる構造的な断絶が生じています。

こうした断絶を乗り越えるうえで、資金の担い手が持つ経営・財務の知見や産業界とのネットワークは、単なる資金供給を超えて、ディープテック・スタートアップの戦略設計や事業成長を左右する極めて重要なリソースです。本プログラムは、こうした背景のもと、「資金の担い手」が自らの強みを生かしながら、技術の可能性と社会課題、事業性を統合的に捉え、イノベーションの「支え手」として関与していくための視座とスキルを獲得することを目的としています。

なお、本取組は慶應義塾大学のビジョン「未来のコモンセンスをつくる研究大学」の実現に向け、慶應義塾大学イノベーション推進本部が主催し、日本学術振興会「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択された取り組みの一環として実施されます。

### 1. 慶應義塾イノベラボ 第1期の特徴

- **ディープテックの社会的インパクトに特化した実践型プログラム**
  - ディープテック・スタートアップを題材に、社会的インパクトと事業性の双方を追求する視点から事業や投資のあり方を探究します。
  - 「インパクトマネジメント」や「システム×デザイン思考」を用いながら、対話を通じて「技術の可能性をどう社会価値と事業性に翻訳するか」を学びあいます。
- **資金の担い手を対象とし具体的なアクションにフォーカスした少人数・選抜制研修**
  - 機関投資家や事業会社などを主な対象とし、その経営・財務の知見やネットワークを、資金供給にとどまらないイノベーションの推進力へと生かすことを重視します。
  - 少人数・選抜制とすることで、参加者それぞれが自らの知見や問題意識を持ち込み、双方向の議論と伴走型のメンタリングを通じて、組織内で実装可能なアクションプランの構築を目指します。
- **ディープテック・スタートアップ最前線の現場と資金の担い手をつなぐ場**
  - 研究所やスタートアップ拠点の訪問、起業家・研究者との対話セッションなどを通じて、ディープテックの現場と資金の担い手が出会い、互いの前提や課題認識をすり合わせる機会を提供します。
  - 2025年度にパイロットプログラムとして実施した第0期に続き、プログラムを通じて形成されたネットワークを活かしながら、受講後も継続的に学び合うコミュニティ

づくりを進めていきます。

- 「慶應義塾イノベラボ 修了証」の発行
  - 所定の条件を満たした受講者には、「慶應義塾イノベラボ 修了証」を発行します（単位付与はありません）。
  - キャリアパス上の学びの証として活用いただくことを想定しています。

## 2. 募集要項概要

- 対象：金融機関、事業会社、投資機関等に所属し、ディープテックや大学発研究に対する投資・新規事業開発を主導する資金提供者・支援者の方。
- 募集人数：16名程度（選抜制）
- 開催期間・会場：2026年9月～12月（オンラインによる導入セッション、三田キャンパスでの講義・ワークショップ、山形県鶴岡市での合宿型セッション等を予定）。
- 参加費：180,000円（消費税込198,000円）  
※研修プログラム参加費および一部の食費を含みます。会場までの交通費・宿泊費等の旅費は各自ご負担ください。  
※本プログラムは J-PEAKS の支援を受けており、当該支援を通じて受講しやすい参加費設定としています。
- 募集期間：2026年4月27日～6月15日（予定）  
※カリキュラム・応募フォームを含む募集要項は、慶應義塾大学イノベーション推進本部ウェブサイトに掲載しています。同サイトにアクセスのうえ、所定の応募フォームから必要事項をご記入ください。ご応募内容をもとに選考を行い、結果は7月上旬を目途にメールにてご連絡します。



< 募集要項等掲載ウェブサイト（慶應義塾大学イノベーション推進本部） >  
<https://innov.keio.ac.jp/startup/topics/>

## 3. カリキュラム概要（予定）

- 本プログラムは、講義、ワークショップ、合宿セッションを組み合わせ、ディープテックの社会的インパクトを事業戦略・判断に落とし込む力を実践的に養う構成としています。
- 導入セッション
  - 慶應義塾・山岸広太郎副理事から、慶應義塾大学が目指すイノベーション・エコシステムとインパクトの基本的な考え方を共有します。
  - 一般社団法人インパクトマネジメント実践機構の須藤奈応代表理事による「インパクトマネジメント」をテーマとしたワークショップに加え、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の五百木誠准教授リードによる「システム×デザイン思考」の講義・演習を通じて、ディープテックの社会的インパクトを事業戦略・判断に落とし込むための思考のOSをインストールします。
- 教養セッション
  - 慶應義塾大学・前野隆司名誉教授によるウェルビーイング学や慶應義塾大学理工学部・見上公一准教授による科学技術社会論に関する入門講義などを通じて、人間の幸福や社会システムの観点からイノベーションを捉え直すセッションを予定しています。
- 鶴岡セッション
  - 山形県鶴岡市に所在する慶應義塾大学先端生命科学研究所を中核とした鶴岡サイエンスパークなどの研究・産業拠点を訪問し、実在するスタートアップとの共同ワークや対話を通じて、「技術×事業×社会課題」が交差する現場を体験的に理解します。
  - あわせて、庄内地域に根付く歴史や精神文化にも触れることで、この地域ならではの

の価値観や風土がどのようにイノベーションの源泉となってきたのかを考える機会とします。

- **修了セッション**

- プログラムの最後には、受講期間中の学びや各自の担当領域を踏まえたアクションプランを共有する最終セッションを設け、参加者同士および大学側との継続的な連携につなげていきます。

#### 4. 第0期の実績・受講者の声

- 2025年度にパイロットプログラムとして実施した第0期プログラムには、銀行、生命保険会社、ベンチャーキャピタル、事業会社から計8社12名の方が参加しました。
- 事後アンケートでは、参加者の約8割が「本プログラムは自身の業務や担当案件にとって役立つと感じたか」という問いに対し、「とてもそう思う」「そう思う」と回答。ディープテック投資や新規事業開発等の実務に応用可能な学びが得られたと評価されています。
- 実際に寄せられた声はこちら。
  - 「単にディープテックの技術を知る場ではなく、事業戦略やインパクトの観点から投資家・事業会社双方の立場で議論できたことが有益だった」
  - 「スタートアップの経営陣や大学の研究者と、本音ベースで議論できる場は貴重」
  - 「ディープテックを支える『資金の担い手』同士のネットワークができたこと自体が大きな成果だった」
- プログラム自体への満足度と共に、参加することで得られる人的ネットワーク・コミュニティへの価値への声もあがっており、第1期ではこうしたコミュニティを継続的な対話の場としてもさらに育てていくことを目指します。

#### 5. 主催者コメント

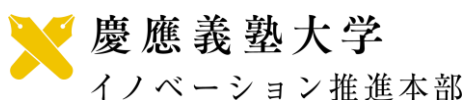
慶應義塾 副理事／イノベーション推進本部 統括副本部長・山岸広太郎

- 大学の研究室で生まれた知を社会へ、そして社会の活力を再び大学へ戻していく「知の循環」をいかに強くしていくかが、慶應義塾大学が目指すイノベーション・エコシステムの核心です。その循環を回すうえで、技術と市場のあいだに立ち、長期のリスクを取る「資金の担い手」の役割はこれまで以上に重要になっています。慶應義塾イノベラボを通じて、日本のマネーが日本発ディープテックの成長と社会課題の解決を同時に支える——そんな新しい当たり前を、皆さんと一緒につくっていただければと思います。

#### <参考>慶應義塾大学イノベーション推進本部について

慶應義塾大学イノベーション推進本部は、研究成果の社会実装を推進するため、大学発スタートアップ支援、知的資産の戦略的活用・マネジメント、起業家志向の人材育成などに取り組んでいます。特にディープテック領域において、技術シーズの発掘から事業化支援、資金提供者との接続、エコシステム形成までを一体的に推進しています。

また、研究成果の社会実装による社会的インパクト創出に向けて、インパクトマネジメントやシステム×デザイン思考といったフレームワークに着目し、対話型プログラムである「慶應義塾イノベサロン」や、資金の担い手等を対象とした「慶應義塾イノベラボ」を実施しています。



#### <参考>一般社団法人 鶴岡サイエンスパークについて

鶴岡サイエンスパークは、慶應義塾大学先端生命科学研究所の開設をきっかけに形成されたバイオテクノロジーの研究開発拠点です。山形県と鶴岡市による慶大先端研への継続的な支援のもと、研究成果を基盤に複数のスタートアップが創出され、現在では世界最先端のバイオ研究が集積するエリアへと発展しています。2021年には、一般社団法人 鶴岡サイエンスパークが設立され、内閣府の「地域バイオコミュニティ」にも認定されました。産学官のネットワーキングやスタートアップ支援、情報発信に取り組み、持続可能なイノベーション・エコシステムの構築を目指しています。



#### <参考>一般社団法人インパクトマネジメント実践機構について

一般社団法人インパクトマネジメント実践機構（英名：Asia Institute for Impact Management Practice／略称：AIIM）は、Impact Frontiers のグローバルネットワークを背景にアジアにおけるインパクトマネジメント（IMM）の「知と実践の橋渡し」を目指し、2026年4月に設立されました。投資家・企業・起業家など現場の実践者が直面する疑問や葛藤に向き合い、インパクトマネジメントを「知識」ではなく「意思決定の質を高めるための実践」として共に探究する姿勢を大切にしています。世界で進むインパクト投資やIMMの最新知見を日本・アジアの文脈に翻訳し、実践に根づく意思決定の質を高めることを使命とし、実践知形成に向けたフィールドビルディング事業をはじめ、実践に向けた研修・調査事業を展開しています。

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部・教育部等に送信させていただいております。

---

- ・内容についてのお問い合わせ先  
慶應義塾大学 イノベーション推進本部  
慶應義塾イノベサロン・ラボ担当：渡邊  
広報担当：大司  
TEL：（大司携帯）080-2722-9668  
E-mail：innov-pr-group@keio.jp
- ・本リリースの配信元  
慶應義塾広報室 担当：道祖土(さいど)  
TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640  
E-mail：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>